

互助組織としての PTA

令和 7 年度滋賀県高 P 連会長を拝命しました石山高校 PTA 副会長の炭谷将史と申します。どうぞ、よろしくお願いします。

さて、昨今「PTA は不要なのではないか」とか「任意組織なのに強制参加はおかしい」という言説が流布しています。私は保護者同士が先生方と協力し、可能な範囲で助け合い子どもたちを支える組織として、PTA が不要とはどうしても思えません。PTA は各種研修（講演会や小旅行等）の企画、新聞の発行を通じた学校の活動の共有、各種学校行事の支援等、保護者同士で助け合い、学校運営を支える役割を担っています。役員の決め方などに不満が生じる向きもあるようですが、やり方に問題があるなら問題の所在を定め、方法を随時改める。保護者がすべきは問題があるからやめるのではなく、保護者同士が協力して、助け合って学校のことを考えている姿を子どもたちに見せることではないでしょうか。

教育は学校だけのものではありません。家庭教育という土壌があつてこそ、学校教育がそこに根を据え、幹を生やし、将来各人が花を咲かせる礎を築くことができる。そのために保護者同士の情報・意見交換、各種研修、親睦会など、お互いに助け合う組織があつた方が良くだろうと思うのです。

かくいう私も、7 年前に初めてある高校の PTA に属した際は、ガチガチに身構えていた気がします。「自分に何ができる？みんな楽しそうやけど、馴染めへのちゃんか？」と思っていました。初めての懇親会でもあまり話せなかった気がします。でも、会議のたびに誰かと少しずつおしゃべりできるようになり、妻とは違うお母さんの視点、私とは違う父親の考えを知り、考える機会をいただきました。今の時代の PTA は、そういうことを楽しくやる場所ということで良いのではないのでしょうか。仕事ではないので「～すべき」とか、あれもこれもやろうとしすぎると疲れてしまいます。PTA の集まりが楽しみであり、考えるきっかけをもらえる時間くらいになってくれたら最高なのではないか、と私個人は考えています。

みなさんも各校で楽しく助け合える PTA をつくってください。必要があれば、連合会としてサポートします。個人の声は届きにくいですが、集団になると声は届きやすくなります。たくさん声を聴かせてください。こんなことをしたらうまくいった、今こんな取り組みをしている、ちょっと〇〇に困っているんだけど、など、一緒に考え、声を届けていきましょう！1 年間、どうぞよろしくお願い致します。